

科目名	専門分野				ディプロマ・ポリシー(DP)	DP2 DP4			
	基礎看護学				担当教員	専任教員			
	看護支援論								
履修学年	1年	履修学期	後期	単位数	1	時間数	4 4		
授業目標	1. 看護過程、クリティカルパス、看護診断の目的と活用方法が解る。 2. 臨床判断のプロセスの意味を理解する。 3. 「胃・十二指腸潰瘍」を疾病論で読み解き、対象の生命力の消耗を最小にする援助を見出す方法が解る。 4. 相互関係において、患者の身体、精神、社会的ニーズを分析し、そのニーズを満たす看護の方法が解る。 5. 看護の原理が組み込まれたツールの活用と援助計画の導き方が解る。 6. 基礎看護学実習を再構築し、「心地良い看護が回復過程に与えた影響」を検証する。								
回	学習内容				方法	担当教員			
1	1) 看護過程、クリティカルパス、看護診断の目的と活用方法				講義・演習	専任教員			
2	2) 臨床判断能力とは何か				講義・演習				
3	(1) 臨床判断能力とは ・臨床思考とは、臨床判断とは (2) 臨床判断のプロセス・気づく・解釈する・反応する・省察する				講義 演習				
4	3) PF課題①「Aさんは胃・十二指腸潰瘍」を疾病論で読み解き 対象の生命力の消耗を最小にする援助を見出す (1) 看護であるもの看護でないものを見極める視点と思考				講義 演習				
5	(2) 看護の目的論、対象論、方法論の活用 ①看護的な観察とアセスメント ・Aさんのレーダーチャート・コミチャート作成 ・Aさんの「生命過程」「認識過程」「生活過程」を読み解く				講義 演習				
6	②疾病論の展開 病気を見つめる看護の視点 ・胃・十二指腸の働き、健康な細胞の特徴				講義 演習				
7	・胃・十二指腸潰瘍の悪化のプロセス								
8・9	・細胞の修復過程 ・回復過程を促進させる要素 ・回復過程を妨げる危険因子 ・事例患者に実施される治療 ・事例患者の回復を促進するための生活上の留意点								
10	③ Aさんの課題の抽出 解決すべき課題とケアに活用できる視点								
11	④快の刺激が回復過程を促進する意味付け								
12	⑤ケアの方向性 援助計画の立案 評価				演習				
13	(3)課題まとめ								
14	(4)相互評価とリフレクション ・インパクト／成長エントリー／知の発見				講義 演習				
15	(5)カンファレンス と評価 (6)リフレクション				講義 演習				
16～19	4) 生活過程を整えるために実践した療養上の世話の意義 PF課題②「心地良い看護が回復過程に与える影響を検証する」				演習				
20・21	5) 発表・検討会				検討会				
22	6) リフレクション 知の再構築				演習				
評価規準 評価方法	パフォーマンス評価①②・筆記試験 100点 筆記試験は30時間終了後に実施 / 基礎看護学実習終了後に、パフォーマンス評価②								
テキストおよび 参考文献	専門分野 基礎看護学 [1] 基礎看護技術 I (医学書院) 実践を創る 新・看護学原論 (現代社) 新版 ナイチンゲール看護論・入門 (現代社) 第4版 看護形態機能学 (日本看護協会出版会)								
履修上の注意 点	第15講義終了後に「基礎看護学実習」を実施する。実習終了後、第16回～22回の授業を実施する。								